

2017年春・募集企業紹介

募集企業の情報は、随時追加予定となっており、復興庁HPにて紹介します。

アサヤ株式会社

企業概要
アサヤ株式会社は、今年で創業166年。気仙沼の基幹産業である漁業に無くてはならない漁具の販売を通して、漁業家の困り事解決を担ってきました。海のうえで活躍する漁師を、そして三陸の漁業の繁栄を裏方として支え続け、漁師の女房役として地域に根ざした事業を行っています。

仕事内容
地域を売り込め！気仙沼ブランドのECサイト強化プロジェクト！

STEP1 会社・サービスの理解+6週間の使い方を検討(1週目)
会社の思いや理念、またECサイトの現状について聞き、今後の行動計画を立てる。

STEP2 ECサイトのコンテンツ拡充・発信(2～3週目)
ECサイトに掲載予定の商品を取材・記事作成し、サイトに上げる。コンテンツ作成と並行して、サイトの見せ方やコンセプトをどう伝えるかの戦略も立案し、実施していく。

STEP3 サイトの売上戦略の検討・実施(4～6週目)
サイトのコンテンツ拡充と並行して、サイトのPV及び売上アップにつながる施策を検討し、実施していく。インターン終了後も継続的に生かせる仕組み作りも視野に入れて検討する。

参加学生へのミッション
日本有数の港町、気仙沼。まちの中心産業である漁業によって、長く活気に溢れていました。しかし、東日本大震災によって沿岸部は壊滅的な被害を受け、水揚げ高は三分の一以下に落ち込みました。また、産業的にも震災前から右肩下がりにっており、様々な課題が複合的に起きている。地域を救うには、看板となる新たな販売チャネルが必要であり、その中核を担うのがこのプロジェクトです。

気仙沼
2月上旬～3月中旬
(1カ月以上、応相談)



株式会社ワイケイ水産

企業概要
水産物鮮魚・冷凍加工品の販売。(通信販売も含む)日本でも有数の漁獲量を誇る宮城県女川町。そこで水揚げされる魚を新鮮かつ美味しいまま食卓に提供。特に女川の「さんま」は主力商品。旬の時期は鮮魚で、またひと手間加えた「すり身」「刺身」などさんまを使った加工品も好評です。最近では養殖から加工まで「女川」にこだわった養殖サーモン「みや銀」を独自開発。新しい主力商品として全国各地に出荷を始めています。

仕事内容
インターネット通販サイトの強化

STEP1 商品理解をする～加工・通販など現場の体験
STEP2 販売戦略の企画・立案～顧客データの分析、通販サイトの企画・立案
STEP3 企画した販売戦略の実施・検証

参加学生へのミッション
通販事業は今後会社として伸ばしていきたい注力事業です。今までも多くのカスタマーにご利用を頂いていますがノウハウが蓄積されておらず、販売戦略まで落とし込んでいません。若者の力・視点を入れ一緒に通販事業をステップアップさせる学生を募集します。

女川
2月中旬～3月中旬
(3週間程度)



株式会社菅原工業

企業概要
地域における建設業者の役割、それは文字通り「まちの土台」を創る事です。菅原工業のコーポレートスローガンは“このまちを、つくる”。彼らが道を創り、道があるからこそ居住が生まれ、仕組みがあるからこそ人々が安心して、安全にこのまちで暮らせています。そして、単純に創るだけでなく、確かな技術力と誠意に裏打ちされた仕事によって、地域からも多くの信頼を集めています。

仕事内容
建設業のイメージ革新を目指す情報発信プロジェクト

STEP1 業務理解+既存の広報戦略について知る(1週目)
専務の菅原さんから会社の取組・思いや、今後の戦略について伺います。また現場へと足を運び、実際の仕事を見学してもらったうえで、今後の活動について整理していきます。

STEP2 取材班として現場に入る+広報グッズのアイデア検討(2～3週目)
現場に出て、実際の仕事内容を取材し、魅力をうまく切り出して記事を作成します。発信場所はWEBを想定していますが、それ以外の発信方法があれば、相談のうえ実施出来ます。また、並行して業界のイメージアップにつながるようなグッズのアイデアを出して頂きます。

STEP3 現場取材+広報グッズの具体化(4～6週目)
引き続き、取材と発信を行います。加えて、検討したグッズを実際に形にするために、デザイン決定や発注などを行います。

参加学生へのミッション
建設業。一言で表してもその業務内容は多岐に渡ります。しかし、その本質は「社会の基盤(インフラ)を整え、人々の安心・安全を守る」ことにあります。身近にありすぎるために見えづらく、ネガティブなイメージを持たれやすい建設業界、その本当の魅力・仕事の意義を発信し、業界に革新を起こすイメージ戦略を実行していきます。

気仙沼
2月上旬～3月中旬
(1カ月以上、応相談)



一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校

企業概要
三陸ひとつなぎ自然学校は、全国から集まる多くのボランティアとともに、釜石の復旧に取り組んできました。釜石に住む多くの人々が生み出す魅力的な価値を、その場、その人だけで終わらせることなく、次の世代に伝わっている状態を目指し、現在は、ボランティアと自然体験を組み合わせた「ボランティアツーリズム事業」と、主に仮設で暮らす子どもたちを対象にした「子ども事業」を実施し、釜石の長期的な復興に向け、地域づくり活動に取り組んでいます。

仕事内容
釜石の鉄人の魅力を伝える動画制作と”Meetup Kamaishi”の情報発信によるファンの獲得

STEP1 ツーリズム事業を理解(1週目)
STEP2 “Meetup Kamaishi”に向けたプロモーション、情報発信(2～4週目)
STEP3 “Meetup Kamaishi”の実施、プロモーション動画制作(5～6週目)

参加学生へのミッション
岩手県釜石市では震災後、多くのボランティアを通じて、新たなチャレンジを始めた地域の人たちがいます。その地域の人たちと釜石外の人たちがつながり、釜石を好きになり、外から支える「釜石ファン」になってほしい。釜石の魅力あふれる「ひと」を発信し、釜石で行われる“Meetup Kamaishi”を共に盛り上げる若者を募集します。

釜石
2月上旬～3月下旬
(1カ月以上、応相談)



2017年春期プログラムについて

主催側からの補助について
・宿泊先は主催側が手配します。
・居住地から活動地域までの交通費の一部を補助します。

現地での生活について
・宿泊先は現地のゲストハウス、シェアハウス等を予定しています。
・食事については基本的に自身で負担・準備いただきます。(宿泊先によっては自炊可のところもあり)

応募について
募集受付期間 平成28年12月中旬～平成29年1月上旬までを予定(必要に応じ追加募集有)
応募方法 12月上旬に復興庁HP (http://www.reconstruction.go.jp/) 及び、復興庁Facebookページ (https://www.facebook.com/Fukkocho.JAPAN/) にてご案内します。
選考等 応募後に復興庁宮城復興局又は、地元コーディネーター団体より連絡を差し上げ、順次選考をさせていただきます。
お問い合わせ 復興庁宮城復興局 022-266-2251(篠原、常盤) 022-266-2250(青砥)

復興庁HP



プログラムの流れ

- 参加決定
- 事前課題のご連絡
- 現地で集合研修(初日)
- 現地職業体験等、中間の振り返り研修
- 最終報告会(最終日)
- 事後課題提出(企業によっては無い場合もあり)

復興庁共催 復興・創生インターン

2017年
春
募集号

復興とインターン

あれから6年、いよいよあなたの出番です



被災地でインターンするわけ

体験では無い「本当の仕事」

生きかたの多様性にふれるツアー

海外より三陸へ、自分を成長させるには

活動後も続くつながり

いま・ここでしかできない挑戦がある

学生だからこそ
できることがある



イントロダクション

2017年春 開催地域

復興庁より学生のみなさんへ

学生の皆さんへ

千年に1度の大災害に見舞われた被災地に、みなさんは足を運んだことがありますか。今、被災地では、目を疑うような大規模な復興工事で、企業の復興に向けた懸命な挑戦があります。その企業の熱い取組に、皆さんの行動力やアイデア、まだまだ未熟かもしれない企画力で一緒に参加してみませんか。

また、被災地での泊まり込みのインターンとなりますが、受入れ企業以外にも、コーディネート団体のアレンジにより、まちの復興に向けて懸命に取り組む、地元の方々や震災ボランティア等を契機に移住した方々など熱い方々との出会いや、志を同じくする他の学生との語らいも待っています。プログラムを終えた時には、皆さんのキャリア観や課題解決能力は大いに向上していることでしょう。

「いま」「ここ」でしかできない挑戦ができる、「復興・創生インターン」に是非エントリーください。

企業の皆さんへ

日頃から実施したいと思いつつも忙しくて取り組めないような課題や自社のリソースでは解決できない課題を学生と一緒に取り組んでみませんか。受入れ企業の方々には、学生だからと言ってお客さん扱いせず、ピンバシと鍛えていただくをお願いします。学生と本気で取り組んでいただくことで見えてくるものがあるはずです。

また、学生の受入れによって、若者との接し方に慣れ、これを契機に業務の棚卸や業務の進め方の見直しを行っていただくとともに、学生のアイデアの中で良いものは取り入れていただき、学生との協働の中での気づきを是非、働きやすさの改善や会社経営に生かしてほしいと思います。

復興庁 参事官(インターン担当)
武隈義一

挑戦者求む！ 実践型インターンシップのススメ！

インターンシップは、1日から2週間程度の見学や体験がほとんど。就職活動として参加している学生も多いようですが、今回の「復興・創生インターン」は、被災地企業のリアルな課題解決に取り組む実践型。そう、みなさんが担うものは、体験では無い「本当の仕事」です。

あの日からもうすぐ6年。被災地では、嵩上げ工事が着々と進み、新しいまちが続々と開きはじめています。しかし、工場が再稼働しても、人手不足でフル操業できない水産加工業者があったり、より魅力的な商品を開発しようにも時間が割けなかったりで、地域産業の復興は道半ばの状態。

そこで、みなさんの出番です！一緒に活動する同期や現地のコーディネーターとともに、社会人でも困難を感じる難題に挑んで下さい。課題解決に本気で挑戦した人にだけ、体験型では決して味わえない「経験」と「学び」が待っています。逆に言えば、「実践型インターンシップ」は、現状に満足している人には、全く向かないプログラムですので、挑戦したくない方はご遠慮下さいね。

「復興・創生インターン」で、あなたと東北の未来をつくってください。東北は、みなさんの挑戦を待っています！



事業協力団体
一般社団法人ワカツク
渡辺一馬

仙台

盛岡

東北
新幹線

新花巻

北上

水沢江刺

ドラゴンレール
大船渡線

一ノ関

気仙沼市

くりこま高原

古川

石巻市

仙石線

石巻線

女川町

岩手クール

実施時期 2月上旬～3月下旬(1カ月以上、応相談)
募集人数 4社×2名 計8名
主催 NPO法人wiz

釜石市
人口約4万人。1300m級の山が3つ、川が4本流れており、海山ともに自然が豊か。盛岡から鉄道で2時間弱。ユネスコ世界遺産の橋野鉄鉱山があり、水産業だけでなく新日鉄釜石を中心とした製造業も盛んである。『ラグビーワールドカップ2019』の開催都市に決まっている。

大船渡市
人口約4万人。大船渡港は、岩手県で最大の漁港であるとともに、貨物の取引量も県内最大。わかめ養殖発祥の地であるなど水産業に加え、幅広い産業が立地。一ノ関から鉄道で3時間弱。津波の被害を受けたJR大船渡線では、盛駅(大船渡市)～気仙沼駅の区間で「BRT」(バス高速輸送システム)が運行され、2016年度グッドデザイン賞金賞を受賞した。

気仙沼クール

実施時期 2月上旬～3月中旬(1カ月以上、応相談)
募集人数 2社×2名 計4名
主催 一般社団法人まるオフィス

気仙沼市
人口約6万人で、三陸地域のリアス式海岸に立地する都市としては最大。仙台から鉄道で約2時間(岩手県一ノ関駅経由)。カツオの水揚げが日本で、このほかにフカヒレなどのサメ関連製品の製造も盛ん。震災後に立ち上がった「経営未来塾」の卒業生を中心に若手経営者が様々なチャレンジを行っている。

石巻クール

実施時期 2月下旬～3月中旬(3週間程度)
募集人数 2社×2名 計4名
主催 合同会社 巻組

石巻市
人口約15万人で、宮城県で仙台市に次いで2番目に多い。仙台から鉄道で約1時間。全国有数の水産都市で、地域の中核都市として商業も発達している。震災後は復興支援で同市を訪れた若者が市内各所で起業し、新たな活気を生み出しつつある。

女川クール

実施時期 2月中旬～3月中旬(3週間程度)
募集人数 1社×2名 計2名
主催 NPO法人アスヘノキボウ

女川町
人口約6千人。震災後の人口減少が県内最大で、4割近くが減少。仙台から鉄道で約1時間半。平地が少なく、町の中心街が津波により大きな被害を受けた。駅前に、商業施設「シーパルピア女川」が整備されるなど、新たなまちづくりが進んでいる。「あたらしいスタートが世界一生まれる町へ」をキーワードに、町を挙げて新たなチャレンジの後押しをしている。

三陸のいま



三陸地域というと漁業がすぐに浮かぶ方が多いと思いますが、近代製鉄発祥の地である釜石市や、実は資本家が多く集まる大船渡市、大島などの自然豊かな観光地である気仙沼市、北上川の河川交通と海運の結節点として栄えた石巻市など、古くから日本・東北の産業を支える重要な拠点になっていました。しかし、進学や就職のタイミングで若者がまちから出て行ってしまうことによる人口減少や、担い手不足による産業の停滞など、たくさんの課題も抱えていました。2011年3月11日に発生した東日本大震災は、そんな課題が山積みの三陸地域を襲いました。

その中で、自分のふるさとの復興や、地域のために何かしたいと全国から集まってきた人が多くいました。また、大変な被害に遭った地元に残り、復興に向けて立ち上がろうとしている人もたくさんいます。例えば、地域の魅力を掘り起こし、地域住民の雇用を生み出そうと奮闘する地元の経営者。大阪からIターンして釜石の六次産業に挑戦する若手社長。今の三陸地域には、震災をきっかけにして魅力あふれる多様な人が集まり、アクションを起こしていこうという環境があります。なにより、外から来た人も温かく迎えてくれるまちの風土は、震災前から変わりません。地元の人と地域の新たな担い手が混じり合い、震災前の状態に戻るのではなく、人口減少、産業の停滞、取引先喪失による企業活動減退・雇用減少などの課題をも乗り越えた新たな三陸を目指す。それがまさに、「復興・創生」だと思います。

私たちNPO法人wizは、「実践型インターンシップ」のコーディネートを行っています。若者に、岩手・三陸と関わり活躍する未来の自分のイメージを持ってもらいたい。それが私たちの想いです。

ぜひ皆さんと、人の魅力だけでなく、山のすぐ足元に青い海が広がる三陸特有の美しい景観や、キラキラとした海の幸などの岩手・宮城の三陸地域の魅力も肌で感じながら、復興・創生をともに目指していけることを願っています。



岩手クールコーディネート団体
NPO法人wiz
八田浩希

復興・創生インターン体験談 2016年夏・気仙沼クール

吉村郁穂

産業能率大学経営学部1年生。これまでに被災地に行ったことはなかった。復興よりも、知らない土地に長期間滞在し、新しいことに挑戦できることに魅力を感じて参加。

松尾俊吾

法政大学デザイン工学部3年生。高校生の頃からボランティアで何度か気仙沼を訪れていた。復興をもっと知りたい、役立ちたいという思いから参加。

なぜインターンに参加したの？

松尾：大学で勉強している土木分野の企業で、高校生の頃から関わっていた被災地でインターンできたらと思い、インターネットで探して見つけました。

吉村：授業中に配られたチラシで知り、知らない土地で新しいことに挑戦できることに魅力を感じ、企画を知ってすぐ申込みをしました。将来、就職先を選ぶ時の選択肢を広げるためにも、今は全くつながりがない土木分野の仕事を知るいい機会だと思って参加しました。

気仙沼はどんなまちだった？

吉村：気仙沼の人の強さを感じました。やる気が満ちあふれていて、いろんなものにチャレンジしている人が多くて、東京の人よりエネルギーで活力を感じました。

どんな気持ちでインターンに臨んだ？

松尾：会社からいただいた課題は、3Kと言われる土木建設業のイメージアップでした。この課題に対して、会社に何か成果を残したいという思いで取り組みました。

吉村：土木建設業は男社会のイメージがあって、社員の方との人間関係が不安でした。あと、松尾さんに負けられないように頑張らなと、という思いで参加しました。

インターンでどんなことをしていた？

松尾：私は、一週間は土木の現場を学びたかったのですが、現場を手伝いたいと希望を伝え、プログラムに組み込んでもらいました。戸建て住宅の庭の造園を手伝った時は失敗をして怒られることもありましたが、フォローしていただき、解決しました。実際の現場に入って作業を手伝うことができたことは、社会人になっても生きるすごくいい経験になったと思います。

受入れ企業 株式会社菅原工業

宮城県気仙沼市で、道路、水道施設など、社会の基盤（インフラ）を整え「まちをつくる」会社。創業昭和40年、従業員数は27名。地域の人々が快適で安心して暮らせる環境づくりに動かし、地域社会と共に成長を続ける会社を目指している。東日本大震災の復興・復興の工事を手掛け、インドネシアからの技能実習生の受入れを契機に、海外展開にも挑戦している。



二週間は菅原工業の顧客へ、建設業のイメージについてインタビューを実施しました。会社の従業員が同行すると遠慮が出るだろうかと、学生だけで聞きに行きました。相手に失礼があれば、会社のイメージが悪くなるため不安もありましたが、顧客からは菅原工業も気づかないプラスの面を多く教えてもらい、新たな発見もありました。三週間はグッズ制作とインターン全体の報告のまとめに吉村さんと2人で取り組みました。

吉村：私は、一週間目から、今回の課題である「土木業のイメージアップ」のためのグッズ制作に取り組みました。まず何を作るかのアイデアを40個考えました。40個の中から、コストや実現可能かを考慮し、会社の専務とも相談の上で3つを決めました。デザインするのもグッズ製作の業者を選ぶのも、すべて自分たちでやりました。

二週間は松尾さんと一緒に顧客インタビューをしました。あと、小中高生への建設業のイメージについてのアンケートを提案して実施しました。質問事項を考え、学校を訪問して相談しました。年代によって、建設業のイメージがどう変化するかを把握するため、小学生向け、中学生向け、高校生向けの3パターンを作って、合計で520名にアンケートをしました。集計がとても大変でした。アンケートの結果は、グッズの作成にも反映しました。他にも、FacebookやTwitterのアカウントを作って、情報発信もしました。

課題で取り組んだグッズ制作では、工事用黒板の形のメモ帳を作りました。



インターンを終えて

松尾：土木の現場が「つらい」というイメージはその通りでした。でも、「人が怖い」というイメージは違っていて、優しい人たちでした。穴を掘ってコンクリートで埋めるのも大変な作業でしたが、その上にいろんなインフラが整備されていて生活が成り立っていると肌で感じました。土木建設業は、他の会社とも連携しながら、人の生活を支えるカッコいい仕事だよ、ということをお伝えできたと、改めて感じました。

吉村：社員の方との人間関係が不安でしたが、全社員の前でのインターンの報告発表後、社員の方から、「いいね」、「よかったね」、という声をかけてもらえて、皆さんと打ち解けられた実感が得られました。実際の仕事内容は、初めてのことだから楽しかったです。大きな方針について指示をもらって、あとは自分たちで考えてくれと言われ、最初は戸惑いましたが、自分で行動する力、成長する糧になったと思います。感謝しかありません。



積極的にコミュニケーションを取ることが、インターン充実の第一歩。

地元と触れ合うインターン 2016年夏・石巻クール



他地域のクールでも、コーディネート団体が起業家や移住者など、地元のアツい方々と触れ合う機会を提供します！

後輩へメッセージ

松尾：計画を立てて課題に取り組み、時間を有効活用することが重要です。インターン期間中は、毎日の内容が濃くあつという間に過ぎていきました。疲れたけど、期間中の1秒1秒を無駄にしないことが大事だと感じました。それから、積極的に人と話すこと。話したらおもしろくて、優しい。他の会社の人にもどう話しかけたらいいか悩んでいたが声をかけてもらえて、話せるようになりました。インドネシアからの研修生とも仲良くなりました。見た目だけじゃなく、国籍、男女も関係なく話しかけたほうが、人とのつながりはどんどんできていきます。

吉村：私も、インターン期間の予定をしっかりと立てることが大切だと思いました。最初うまく進んでいたのですが、それで安心してしまい、結果としてインターン期間が終わった後も作業が残ってしまいました。それから、実行力。積極的に動いたことで一層楽しめたと思います。やりたいことは「とにかくやりたい」と言ってみて、ダメだったときはそのとき次のことを考えればいい。インターンの時間をいかに楽しむかだと思います。

日常生活に生かしている、これから生かしたいこと

松尾：話したら絶対に楽しいということが分かったので、新しい人に出会う場所では、積極的に声をかけるようになりました。そして、いろんな人の生き方を見ることができて、施工管理の担当になっても、現場で仕事を支えている人、現場を知っている人の言葉をしっかりと聞いて、それを実現できるように計画を立てられる人間になりたいと思いました。

吉村：企画書作りやアンケート作りは今後に生かせると思います。それから、言われる前にやる、ということ。社員の方に、「やれって言う前にやってくれて、実行力があるね」と褒めてもらえました。あと、ただ聞くだけではなく、自分で考えてから聞く、ということをしていきたいと思います。学びが多く、事前の期待の200%のインターンでした。

石巻市は水辺の平地の約30%が浸水し、東北最大規模の被害があり、2011年3月から1年間でのべ28万人ものボランティアが訪れました。

復興までの道のりは容易ではなく、こうしたボランティアの活動が非常に長期化することに伴い、中には震災復興の文脈を超えて、この地に定着する人々が現れました。彼らは、地域を盛り上げるために、既成概念にとらわれず地域の魅力を発信できるような、様々な企画を考え事業化してきました。そんな移住者たちの姿をみて、心が動くままに新しいチャレンジに取り組もうという20～30歳代の若手も増えています。

2016年夏のインターンでは、受入れ先の企業以外にも様々なチャレンジを重ねる石巻の若者達の生き方に接していただくことで、これからの進路や生き方についてじっくり考える機会としていただきたいと思います。石巻クールでは牡鹿半島や女川町等のベンチャーの現場を巡るツアーを企画しました。

このツアーでは震災で大きな被害を受けた石巻市蛤浜で、漁村集落の伝統や暮らしの知恵の継承や地域資源の利活用を行う団体にお話を伺いました。その後、震災後に次々と新しいスタートが生まれている女川町で地元の経営者の方々と交流しました。夜には、様々なチャレンジを続ける移住者たちに参加してもらい、夜更けまで食事をしながら語り尽くしました。

参加した学生の皆さんからは、地元の方と触れ合うことで地域のことがより深く知れたという声や、様々な生き方をきくことで自分の将来についての視野が広がったといった声をいただきました。

石巻クールコーディネート団体
合同会社巻組 渡邊 享子



株式会社石渡商店

代表取締役専務 石渡久師氏

企業概要

サメの水揚げ日本一を誇る宮城県気仙沼の地で昭和32年に創業。これまでの54年間、ふかひれ専門店として市場での買い付けから、一般消費者へ商品を届けるまでの製造加工販売を行っている。

学生だけでなく会社の人も成長

今まで受け入れたインターン生には、幅広くいろんなことを経験したいという子も、これからどうしよう?と悩んでいる子もいて、仕事以外でもいろんな話を聞きました。私からも、「言っていることはわかるけど世の中では通用しない、こんな考え方もあるよ。」と話をし、それに対する学生からのフィードバックもありました。学生が来ると、自分たちがやっている仕事に若い人も興味があると感じて、従業員にも刺激になっていると思います。大学生が考えていることが分かって、自分もスタッフもトレーニングになります。学生から突拍子もないことを言われ、それが間違いか正解かはわからないけど、私たちの気付きになることもあります。

田舎の楽しみ方を知ってほしい

今まで来た学生の中には、釣りをするだけでもとっても楽しいという学生もいました。船に乗って、牡蠣の水揚げをして、その場で食べるという体験もさせてもらったようです。また、他のインターン生と出かけたり、出かけた先で知り合った人に食べ物を頂いたり、ということもあったようです。都会のビル街はどこも同じ景色に見えてしまいます。でも、地方はその土地ごとに色があり個性が強い。そういうことを感じられたら、学生の勝ちじゃないでしょうか。田舎も一括りにはできない、いろんな田舎があります。

知らないまちに飛び込むという経験

ここでは新しいものを創り出せるし、都会にはない景色や人に触られます。将来海外で仕事したいという子の挑戦の場にもなると思います。知らないまちに飛び込んで、どうやって自分のチカラを広げていくか。そこが外国国だと思ってやれば、自分の力を試すことができます。

学生ならではの視点で商品の魅力の伝え方を提案

今回は、地域の産品や商品を代行販売するWebサイトの編集を担当してもらいました。商品の魅力をどう伝えるか、今までは気仙沼の人だけで考えていましたが、インターン生には、第三者の立場で、若い人にも売するための視点で、商品の魅力を考えてもらい、商品説明の文章や写真で伝えたい雰囲気なども提案してもらいました。半分くらいは外に出て、商品の取材です。最初は社員と一緒にいき、慣れたら一人で行く。ずっと緊張しっぱなしで、取材の後は疲れて帰ってきていましたね。仕事以外にも、地域の団体会議などの集まりにも一緒に行きました。仕事が終わってからだったのかかなり疲れていましたが、「8〜17時までが仕事だと思っていたけど、地域の経営者の集まりがあることも知れてためになった。」と言っていましたね。

学校の知識だけでなく実践も大切

実際に提案してもらった中では、お酒の味を説明した表を作ってもらえたことが、一番良かったです。普段日本酒を飲まない若い人は、銘柄を見てもどういう味なのか分かりませんよね。味が見えたらおもしろいねということで、学生が酒蔵を訪ねて、聞いて作ってくれました。このほかにも載せたい情報がたくさんあったようですが、載せられる情報は少し。工夫しながら抜粋して作ってくれました。うまくいかないこともありました。学校で習ったことをやろうとするけど、実際の現場でなかなか使えない。やり方を変えると、根底からひっくり返って、一からやり直し。でも「習ったことも有意義なんだよ。それぞれうまく組み合わせよう。」と話していました。

気仙沼一口メモ

唐桑の鮒立、安波山、大島の亀山に行くことをおすすめします。この3か所から気仙沼を見ると町の位置関係が分かってリアス式の地形も見ることが出来ます。そして、山からの恵みが海に養分を与えていることも感じられるでしょう。気仙沼に来たら、まずその土地を飛び回って地理感を覚えて、人と話をし、地区の雰囲気までつかんでみてください。そうすると社員とも話が弾むようになります。全体を見てから、どんどんと小さいところに入っていくのが、土地を知る（仕事を）知る（秘訣）だと思います。

気仙沼には、「フラッグシップ」がある。



気仙沼クールコーディネーター団体 一般社団法人まるオフィス 小林峻

アローリンクス株式会社

代表取締役 川原夕輝氏

地域の外から来た人だから気づく大船渡の魅力

当社の主な事業は、企業の販売や仕入などの基幹業務に関わるソフト開発やWEB・スマートフォンアプリの開発を行うシステム事業部と、ホームページを制作・運営するコンテンツ事業部の二つです。コンテンツ事業部は、女性社員が中心となって、お店や地域のおもしろいものを女性ならではの目線で発信するWebサイト「オオフナコ」も運営していて、今夏のインターン生には、大船渡の魅力を発信するための記事の企画、立案と実施、発信までのすべてを担ってもらいました。地元にあるおもしろコンテンツを掘り出して体験し、発見して発信する、というものです。学生には、大船渡の良さを地域の外の目で感じて、記事にして発信してほしいと思っていました。私は大船渡出身で大船渡が好きですが、一度この地を離れて、よさを実感しました。地元の方にも、学生が外から来て関わってくれることで、違った目線での大船渡の良さを知ってもらいたいです。また、大船渡は高校までしかないのも、若者は地元の良さがなかなかわからないまま離れてしまいます。でも、同じ世代がいいところを見つけて発信してくれると、伝わるのではと思っています。

学生だからって特別扱いしない、ただ育つ土壌はある

成果をあげる、地域との関係を作るには、1カ月というインターン期間は短いです。半年〜1年はないと。でも、学生にとって1カ月は長く貴重な時間です。その貴重な時間を使って来てくれる学生は、やはりモチベーションが高いです。大切なのは、能力が高いということより、何かやりたいという芯、気持ちの種を持っていること。それがあれば、生かしてくれる土壌が大船渡にはあります。私たちが学生のために機会を与えるということはありません、探しに行くという主体的な気持ちがないと成果は生まれません。理念、やりたいことを理解して、未知の領域を体験できる、それを期待する意欲的な学生が来てくれたらと思います。

2017年春・インターン募集

アローリンクス株式会社

企業概要

アローリンクスは人を大切に、地域の未来を創る社会システムを構築するイノベーター集団を目指しています。その一環として、地域のITスキルの底上げを目指し、地元企業の情報発信を推進するためのWEBサイトの構築・運営や高校生向けのITキャリア事業も行っています。2010年に創業し、その4か月後に被災、オフィスも大変な被害に遭いました。アローリンクスは震災とともに歩む企業であり、地域の課題解決を自分たちの使命ととらえています。

仕事内容

郷土芸能の魅力発掘、
ツアー事業に向けたモニター企画・実施

- STEP1 取材先事前視察、プロモーションスタート(1週目)
- STEP2 ツアー内容の検討、郷土芸能・文化の体験取材(2週目)
- STEP3 ツアープラン確定、モニター募集開始(3〜4週目)
- STEP4 体験ツアープランの実施、企画振り返り(5〜6週目)

インターン後も続く学生との交流

当社が受入れた3期目(2016年春)のインターン生が、大船渡を盛り上げるイベントを企画中です。学生は発想と行動力はあるけど、課題もいっぱい。でも、縁もゆかりもなかった学生がイベントをやってみたい、と言ってくれたことは、地域にとっていいことです。地元の人は思ってもみなかったと思います。4期目(2016年夏)の子は、大船渡のビジネスコンテストに出る予定です。インターン生とのつながりは地域の財産ですね。インターン生と地域の人達とは、長期的な視点で関わりができて、大船渡に興味を持つ人が増えて、といういい流れができています。最近、まちの人からも「インターン生は今度いつ来るの?」と聞かれる事が多くなりました。1か月、地元と密接に触れ合うことがいいのかもしれない。私も、社員たちも、学生の受入れや指導方法などについて、回を重ねるごとに上達していると感じています。今後はより大きな成果を期待したいですね。将来的には一緒に頑張っていく中で、大船渡で住んで働いてみたいという学生が一人でも出てきてくれたら、最高ですね。

※このインタビューは、復興庁とは別のプロジェクトでアローリンクス株式会社が実施したインターンでの経験を元にお話いただいています。

参加学生の方へのミッション

大船渡には、震災をきっかけにして移住せざるを得なくなった女性たちがいます。そうした女性たちに大船渡を楽しんでもらいたいと始めたのが、地域Webサイト「Ohfunako(オオフナコ)」です。そしてさらに多くの女性に大船渡の楽しさ、良さを知ってもらい、将来的には女性の活躍機会を創出することを目指し、女性×ITで郷土文化のコーディネート事業の立上げに挑戦します。



大船渡一口メモ

おすすめの場所は、大船渡中学校です。大船渡全体を見ることが出来ます。食べたりゆっくりしたりという時には大船渡フレハブ構丁にある「イマール」。さまのビザがおいしいです。気候は、東京よりは寒いですが、若手の中では冬でも比較的暖かいです。雪はほとんど降らないし、1日2日で溶けます。でも、今までのインターン生は雪が降って楽しんでいましたね。インターン生の話を聞いていると、お店やまちでいろいろな声をかけられるようです。若い人がいること自体が珍しいし、人のつながりが近いからでしょうか。そこでインターンや仕事につながる情報が得られることもあります。そんなことも楽しんでもらえたらと思います。